那覇市立教育研究所 所報

令和6年度 3月号
所長 棚原 歩

3月21日(金)、今年度の第123期教育研究員と特別研究員の皆さんは、成果報告会を終え、半年間または1年間にわたる研究生活を修了しました。研究員の研究概要を紹介します。

《自立支援教室「きら星学級」》

支援終結後を見据えた切れ目のない支援の充実
～組織との連携を密にした段階的支援の工夫を通して～

那覇市立若狭小学校教諭 砂川 秀貴

これまで学級担任や生徒指導主任として，不登校または登校しぶりのある児童や登校できても教室に入ることが難しい児童を目の当たりにしてきた。そこで，児童本人や保護者からのニーズを把握し，関係機関につなぐ対応を行ったこともあった。しかし，支援期間中は登校することができるが，支援期間終了後は再び登校しぶりや欠席がはじまり，不安定な登校状況を繰り返すことになった事例も少なくなかった。

このことから，学校以外での支援を実施している関係機関との連携や，その後の学校での支援について校内での支援計画と共有が十分ではないと感じていた。不登校児童生徒が登校復帰を果たすためには，学校と関係機関が連携し，当該児童生徒の特性やニーズを共有することが不可欠である。

そこで，1「支援終結を見据えた支援計画について」2「きら星学級における毎月の支援状況報告の方法について」以上2つの方策で支援の工夫と学校との連携について研究した。

その結果，学校と支援計画を共有することで，共通認識のもと支援にあたることができ，きら星学級支援終結後，学校での支援を可能とすることにつながった。また，支援計画が児童生徒のニーズを重視したものになり，支援終結後の登校復帰につながった。

《教育相談 自立支援教室「あけもどろ学級」》

「かかわる力」や「ふり返る力」を育成するための支援の工夫
～個々の実態に応じた体験活動の充実と学校との協働連携を通して～

那覇市立壺屋小学校教諭 石川 巴美

今年度の自立支援教室「あけもどろ学級」には，9名の生徒が入級している。あけもどろ学級を担当し不登校生徒と関わる中で，他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒や，自己肯定感が低い生徒が見られ，キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」のうち，「かかわる力」「ふり返る力」に課題があることが分かった。また，昨年，教育支援センター等連絡協議会に加盟している各教室の情報共有の中で，学校が多忙で担任の先生と連絡が取りづらい，学習課題や評価の調整が難しい，不登校児童生徒と学校とのかかわりが薄い等，学校との連携が課題に挙がっていた。

本研究では，生徒の興味や特性に応じた体験活動や交流体験を通して，様々な経験を積むことや他者と関わる機会を設定した。また，学校との連携を密にし，行事の日程や内容を確認したり，どのような方法で行うと生徒が安心して活動することができるのかを話し合ったりすることで，個々の実態に合った支援を行った。

その結果，生徒が他者と関わることが楽しいと感じることができたり，スモールステップで成功体験を積み重ね，自己肯定感が高まったりしたことで，「かかわる力」「ふり返る力」を育むことができたと考える。

《小学校 生活科》

思いや願いを表現する児童の育成
～架け橋期における気付きの質を高める学習指導の工夫を通して～

那覇市立松島小学校教諭 米須 智子

児童の実態として，アンケートから，「生活科は好きですか」では，肯定的に回答する児童が9割以上という結果となり，活動を楽しんで学習に取り組んでいると考える。また，「自分の考えをペアに伝えることができますか」では，肯定的に回答する児童が8割という結果となったが，主体的に自分の考えを伝えることができる児童の姿はあまり見られなかった。これまでの授業実践において，架け橋期における活動や体験の充実に向け環境を整えるものの，自分の気付きを表現し，自ら他者と話し合ったりする姿はあまり見られなかったため，表現活動の充実に向けた手立てが十分ではなかったと考える。

本研究では，自分の思いや願いを実現する過程において気付きの質を高める手立ての工夫が必要だと捉えた。そこで，幼児期に育まれた学びの芽生えを生かしながら，活動において体験や表現などが一体的に繰り返し行われ，自分の思いや願いを表現し，他者と伝え合うことができる手立ての工夫を実践的に研究した。

その結果，心が動いたところを表現させる「気付きカード」を選択させ，思いや願いを可視化させることで，より自覚された気付きへつなぐことができた。 また，その気付きの交流をする「きらきらタイム」の場において，同じ気付きや違う気付きを共有することで，一人一人の気付きを関連付けたり，新たな気付きが生まれたりし，気付きの質を高めることができたと考える。

《ICT教育》

自律的にデジタル社会と関わる児童の育成
～ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ｼﾃｨｽﾞﾝｼｯﾌﾟ教育を関連付けた教科等横断的な指導の工夫を通して～

那覇市立城南小学校教諭 松田 泰知

児童の実態として，情報を受信する際には正確に判断する自信が無いこと，発信する際にはトラブルを恐れて活用に消極的であることに課題があった。

そこで本研究では，自分たちの意思で自律的にデジタル社会と関わっていく考え方である「デジタル・シティズンシップ」が，デジタル社会で活躍するために必要な力であることを児童と共有した。そして，学級活動(2)では，デジタル社会との関わり方について自己の生活上から課題を見いだし，解決するための取組を意思決定させ，事後の活動として，取組の実行や自己評価を行わせた。また，その活動と並行して，教科の授業にデジタル・シティズンシップ教育を関連付け，理解と活動を繰り返し行った。

その結果，学級活動(2)では，児童自ら意思決定した取組をしようとする姿が見られた。また、教科の授業では，デジタル社会と関わる上で必要な知識等を理解し，理解したことを活かして活動する姿が見られた。

これらのことから，デジタル・シティズンシップ教育を関連付けた教科等横断的な指導の工夫を通して，主体的にデジタル社会と関わり課題解決しようとする態度が涵養され，デジタル社会との関わり方を理解し自ら善悪を判断して行動する力が身につくことで，自律的にデジタル社会と関わる児童の育成に繋がったと考える。

《幼児教育》

好奇心を抱き探究する園児をめざして
～園児の興味や関心を生かした表現活動を通して～

那覇市立大道みらいこども園
保育教諭 永村 裕子

園児の実態として，身近な環境に親しみながら主体的に遊んでいる子が多い。しかし，気付いたことを「どうしてだろう？」と，さらに疑問をもって調べたり，思いを表現しながら考えを深めたりする園児の姿はあまり見られなかった。

そこで，園児の興味や関心を生かし，「わくわく！どうぶつものしりはかせになりたい」の活動を通して，好奇心を抱き自分なりの考えを自信をもって表現する環境構成や援助の工夫について研究した。

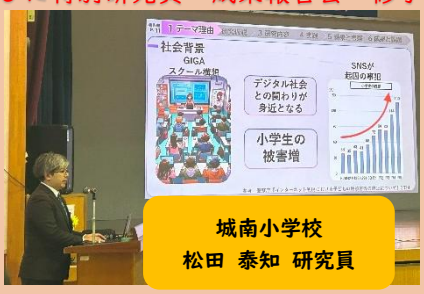
実践を通して，園児が「面白そう」と関心をもち，物事をじっと見つめ好奇心を抱く姿を捉え，園児の興味や関心を生かした表現活動を行った。その際，園児が活動の面白さに気付き活動に取り組めるよう，探究心の深まりに沿って，「面白さに気付かせる，園児の気付きや考えを引き出す，自分で予想し考えを深める，自分なりの工夫を促す」の4つの視点をもち援助の工夫を行った。また，身近な環境に好奇心を抱き友達と考えを合わせながら夢中になって取り組めるよう環境構成を工夫した。

その結果，園児は，自分が興味のある表現方法を選択し，じっくり取り組み，試行錯誤しながら自分なりの気付きや考えを表現していた。また，友達との関わりを通して，探究心が深まり夢中になって活動に取り組む気持ちの高まりをみることができた。

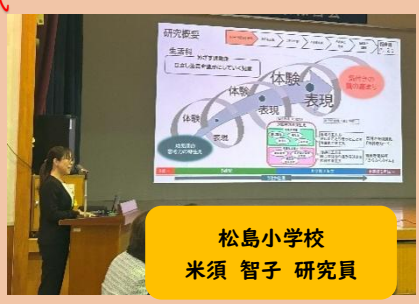
裏面もご覧ください

□令和６年度　第 123 期教育研究員並びに特別研究員　成果報告会・修了式

大道みらいこども園
永村　裕子　研究員



城南小学校
松田　泰知　研研究員



松島小学校
米須　智子　研究員

壺屋小学校
石川　巴美　研究員

若狭小学校
砂川　秀貴　研究員

□令和6年度　研究員研究成果報告書

今年度は教育研究員６名、特別研究員２名、合計８名の研究員が修了いたしました。
各研究員の研究成果報告書を右のＱＲコードからご覧ください。

令和７年度　４月　教育研究所事業

２日（火）初任者研修①・開講式
３日（水）研究員入所式
４日（木）初任者指導教諭等連絡会
７日（月）初任者研修校長連絡会(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ)～18 日
10 日（木）初任者研修②
11 日（金）研究員テーマ検討会
21 日（月）情報教育講座Ⅰ
23 日（水）開講式・中堅教諭等資質向上研修①
24 日（木）教職２年目研修①
25 日（金）研究員項立て検討会
28 日（月）ＮＡＲＡＥネット調整会議①

令和7年度 教育研究所『研修事業計画』の概要

令和7年度に向けて、教育研究所では、次のような研修を計画しています。

【教育課題に係る研修会】

☆講演会Ⅰ（オンライン研修）

テーマ：「(仮) 生成 AI を活用した校務 DX について」
日　時：令和７年５月 27 日（火）15:15～16:45
対　象：全職員
方　法：各学校にてオンライン参加
講　師：元文部科学省　学校 DX 戦略アドバイザー
大城智紀　氏

令和６年 12 月に改訂された「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver.2.0)」の理解を深め、活用事例紹介をもとに生成 AI を活用した校務 DX を推進します。

☆講演会Ⅱ（オンライン研修）

テーマ：「主体的・対話的で深い学び」をもう一度考える
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～
日　時：令和７年７月７日（月）15:10～16:45
対　象：全職員
方　法：各学校にてオンライン参加
講　師：文部科学省　初等中等教育局　主任視学官
田村　学　氏

最新の教育動向や本市教育的課題について共通理解を深め、今後の授業改善に生かす。

【法定研修】

・初任者研修（校内 120 時間程度、校外 13 回）
・中堅教諭研修（校内 15 日程度、校外 10 回）

【経年研修】

・教職２年目研修（校内 15 時間程度、校外３回）
・教職３年目研修（校内５時間程度、校外２回）
・教職５年経験者研修（校内研究授業２回、校外２回）

【その他の研修】

・初任者研修連絡協議会（３回）
・初任者研修連絡会【校長向け】、次年度初任者研修に係る説明会（オンデマンド各１回）
・特別活動主任研修会、研究主任研修会、臨時的任用教員研修会（各１回）
・ICT 情報教育推進部会（７回）
・情報教育研修（５回）

↓↓↓「学び続ける教職員を支援します」

【講座】

・教育法規講座Ⅰ「教育法規理論」
・教育法規講座Ⅱ「教育論文の書き方(演習)」
・Google for Education①「Google 基本操作」
・Google for Education②「ICT 活用による授業づくり」
・情報教育講座Ⅰ「学校ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄ運用」※R7 他地区より異動対象者向け
・情報教育講座Ⅱ「ICT 活用による授業づくり」
・夏期実践講座『ブラッシュアップ講座』(9 回)
8/18(月)①課題研究の進め方　②学校ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄ編集
8/19(火)①ロールレタリング(生徒指導)
②自立した学習者の育成
8/20(水)①国語科授業づくり　②ICT 活用(校務改善)
③数学科授業づくり
8/21(木)①多様な児童生徒理解
②小学校体育科授業づくり

※赤字は１月号から変更

お知らせ

教育委員会の組織改正に伴い、令和７年度から、教育研究所情報支援グループは、学務課学校支援室に統合されます。５月頃までは、教育研究所内の内線番号での対応になります。よろしくお願いいたします。